様　式　Ｃ－１９、Ｆ－１９、Ｚ－１９　（共通）

科学研究費助成事業　　研究成果報告書

平成 ２８ 年　 ６ 月　 １ 日現在

機関番号：１４４０１
研究種目：基盤研究(C)（一般）
研究期間：2013～2015
課題番号：２５３７０３５２

研究課題名（和文）ラトビア・ユダヤ人文学の研究--多言語・多文化文学の可能性をめぐって

研究課題名（英文）The Study of Latvian Jewish Literature: On the Possilibity of Multi-Lingual and Multi-Cutlural Literature

研究代表者
ヨコタ村上　孝之（Yokotamurakami, Takayuki）

大阪大学・言語文化研究科（研究院）・准教授

研究者番号：００２００２７０

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費）　　3,100,000円

研究成果の概要（和文）：ラトビアのユダヤ系文学者の作品と生涯の検討を行い、ポリグロティズムと言語的アイデンティティー、ナショナリズムとの関係に関する知見を得た。このためにM・ラズームヌイ、A・イメルマニスらの作品を調査・分析した。一般に信じられている理論とは異なり、バイリンガリズムは民族的アイデンティティーの意識を先鋭化させる傾向にあり、その真の解消はポリグロティズムに求められることが検証された。成果発表の研究報告を米国、クウェート、チュニジアなどの国際学会で行った。また、成果の刊行として、大阪大学言語文化研究科紀要、JSEES（日本ロシア東欧研究）第36号、大阪大学言語文化研究科プロジェクトに発表した。

研究成果の概要（英文）：In this project I have studied the life and works of Latvian-Jewish literati and obtained a variety of insights into the relationship between polyglotism, linguistic identity, and nationalism. In concrete terms, the works of M. Razumnyi, A. Imermanis, et al were analyzed. In contrast to the widely accepted theory that bilingualism leads to the deconstruction of national identity, my research has shown that it tends to the sharper consciousness of it and that the true deconstruction of it may be achieved through polyglotism. The research results were made public at international conferences (USA, Kuwait, Tunisia, etc.) and as published articles in academic journals such as _Proceedings of the Graduate School of Language and Culture at Osaka University_, JSEES (Japanese Slavic and East European Studies), etc.

研究分野：比較文学

キーワード：ラトビア文学　ロシア文学　ユダヤ文学　ポリグロティズム　ディアスポラ

１．研究開始当初の背景
申請者の専門はロシア文学であったが、在外ロシア文学に関心を持つようになり、科学研究費課題として平成 19－21 年度は基盤研究（C）（2）「ロシアン・チャイナのロシア文学研究」、平成 23－25 年度は基盤研究（C）（2）「ユダヤ系亡命ロシア人文学の研究」を受け、研究を進めていた。その過程で、ロシア帝国およびソ連邦の周縁であるラトビアに、また、ロシア文化の中の他者であるユダヤ文化に関心を深めるに至った。そのことにより、ラトビアのユダヤ人文学者を研究するという構想が生まれた。ラトビアは隣国のベラルーシ、リトアニアと比べて、ユダヤ人のプレゼンスが大きかった国とは思われておらず、同国のユダヤ社会・文化はそれほど盛んに研究されてきたわけではない。だが、実際には比較的大きなユダヤ・コミュニティーを持ち、また、ユダヤ文化の活動も活発で、それを調査することは極めて有意義なことであるように思われた。また、ラトビアはその被支配の歴史から多言語社会となっており、その中でもユダヤ人のポリグロティズムは顕著なものであった。そこで、ラトビアのユダヤ系ロシア文学を研究することは、ロシア文学史の欠落部分を補う意味でも、また、近年盛んになっているバイリンガル文学・多言語文学の研究に寄与する意味でも大きな意義があることが予想され、本研究課題は構想された。

２．研究の目的
ラトビアの、主にロシア語で執筆・出版していたユダヤ系文学者の作品と生涯の検討を行うこと。主な対象は、M・ラズームヌイ、A・イメルマニス、L・コヴァーリ、E・ヴェーヴェリスらの生涯と作品。調査の目的は、これらのあまり調べられていないラトビアのユダヤ人文学者の書誌的・文献学的・歴史的調査を行い、その全体像を明らかにするとともに、ユダヤ人のバイリンガル性・多言語性は彼らがおかれた歴史的・社会的状況とどのように連関しているのか、言語と民族的アイデンティティーの間にはどのような関係があるのか、バイリンガリズムと多言語性にはどのような差異があるのかなどといった問題についての理論的知見を得ることであった。

３．研究の方法
（主に海外の）図書館、公文書館での、ラトビアのユダヤ系文学者の作品の閲覧・収集。最新のテキスト理論に基づいたそれらの分析。

４．研究成果
ラズームヌイについてはそのロシア語で出版された著作をほぼすべて購入・複写し、収集した。ペテルブルクおよびリーガの図書館・文書館で刊行作品のほぼすべては発見し、複写した。スタンフォード大学ではマイクロ・フィルム化された著作を多数見つけ、コピーした。伝記的史料に書かれていた、ラズームヌイがドイツ語で書き、ハンブルクのユダヤ系新聞に発表したとされる短編小説は長らくその所在をつきとめることができなかったが、スタンフォード大学グリーン図書館で同新聞のマイクロ・フィルムを発見し、それを丹念に調べることによって、存在を確認し、コピーを取った。また、ラズームヌイがハンブルクのインターネット上の古書籍商の目録で２点のドイツ語訳を見つけ、購入した。また、リーガの国立中央図書館では司書の助けを得て、ラトビア語で発表された作品の所在を多数つきとめることができ（ラトビア語の雑誌に掲載されていたもの）、そのかなりの部分を同図書館で複写を行った。これらの作業を通じて、ラズームヌイの作品はほぼ網羅的に収集し、ビブリオグラフィーを完全に近いものにした。今回の科学研究費の研究ではロシア語で出されたものの調査を中心に行ったが、可能な限り、イディッシュ、ドイツ語、ラトビア語でラズームヌイが刊行した資料も収集した。彼のイディッシュのノヴェッラ集はロシア語、ドイツ語に翻訳されてもおり、それらも収集した。原典と翻訳各種のテキストが揃ったことで、それらの本文校訂や比較の作業を行い、版の間の関係を明らかにしようとした。その作業はかなり進展したが、依然として非常に奇妙なずれ、ねじれ、異同があり（それは収録作品の違いにとどまらず、テキストの内容の異同にも関わる）、十分、説明しつくすことができなかった。今後、初出のテキストをさらに徹底的に収集することでこの問題を解明していく意向である（これは平成 28 年度―30 年度であらたに採択になった科学研究費の課題で行う予定である。研究最終年度に行ったラトビア出張では、アルヒーフにてイディッシュ語の資料を多量に発見し、その調査が平成 28 年度よりの科学研究費での研究の課題となっているが、ラズームヌイが編集者や出版社とやりとりした書簡類もかなり含まれており、こうしたアルヒーフ資料の精査によって、上記の本文校訂的作業が進むことが期待される）。
そのほかのユダヤ系文学者の作品も広範囲に収集した。ラズームヌイの作品についてはデータベースを構築し、作品名、キーワードで検索できるようにし、研究者の便に供するようにした。当該データベースは現在、個人ホームページで公開するべく準備中である。これらの文学者の作品は一般的な、入手しやすい版では出版されておらず、それらの収集のために科学研究費を用いて海外出張を行った。科研費受領期間中に数度の出張（国内外）を行い、ロシア連邦のモスクワ市ロシア国立図書館、同分館東洋文庫、サンクト・ペテルブルク市ロシア公共図書館、イシム市エルショーフ文化センター、同市国立児童図書

館、トロビスク市州立学校、米国のスタンフォード大学グリーン図書館、同フーバー研究所公文書館、サンフランシスコ市ロシア文化センター、リーガ市国立公文書館、同市国立中央図書館、同市ユダヤ文化センター、ミンスク市国立中央図書館、ミール市ミール博物館、ヴィルニュス市リトアニア公共図書館、ルクセンブルク大公国ルクセンブルク市国立美術博物館、ノルウェー国オスロ市歴史博物館、同市イプセン博物館コソボ国プリスチーナ市国立図書館、モンテネグロ国ポドゴリッツァ市国立博物館、クロアチア国スプリット市市立博物館および歴史博物館、チュニジアのフームスーク市伝統民芸博物館、ラ・グリバ・シナゴーグ、チュニス市バルドー博物館、アルゼンチン国ブエノスアイレス市歴史博物館、同市国立中央図書館、コルドバ市歴史博物館、ウルグアイ国コロニア・デル・サクラメント市歴史博物館などで文書の閲覧、資料の収集・複写を行った。
また、これら一次資料の収集と並行して、関連する二次資料の購入・収集を進めた。これは近年、盛んになりつつある、亡命文学・ディアスポラ文学・多言語文学・バイリンガル文学・非母語文学・エミグレ文学・ポリグロティズム、あるいはポスト・コロニアル批評・世界文学・翻訳・文化的／言語的帝国主義などに関する批評的言説、理論的文献である。
収集された一次資料（文学作品）および二次文献を検討し、ポリグロティズムと言語的アイデンティティー、ナショナリズムとの関係を考察、さまざまな新しい知見を得た。たとえば、一般に信じられている理論とは異なり、バイリンガリズムは民族的アイデンティティーの意識を先鋭化させる傾向にあり、その真の解消はポリグロティズムに求められることが検証された。
また、多くの場合、ユダヤ人はイディッシュおよび帝国の言語（ロシア語、または商業用語としてのドイツ語）を高度に習得したが、居住地域の言語をあまり習得しなかったという傾向が指摘されているが、ラトビアの場合はこれはあてはまらず、ユダヤ人はイディッシュとロシア語のほかにラトビア語に熟練していたことが、文学者の作品、エッセイ、書簡、日記などから検証された。これはラトビアが、リトアニア、ポーランド、ウクライナなどに比べ、比較的ユダヤ人人口の少ない地域であったことと関係しているということも検証された。
　なお、ラズームヌイのノヴェッラ集『秋にも木々は花咲くИ Осенью цветут деревья』の翻訳を進めており、現在、河出書房新社と出版の交渉中である。
　本研究課題の範囲では主に、ラトビアのユダヤ系文学者のロシア語の作品を検討したが、調査の副産物として、リーガ市ユダヤ文化センターのアルヒーフに、ラズームヌイの主にイディッシュの文書（書簡、日記、メモなど）が大量に残っていることを最終年度に発見した。本研究課題の範囲内ではそれを十分に調査することができなかったが、新たに平成 28 年度より受けることになった科学研究費の課題でそれを徹底的に調査する予定である。

５．主な発表論文等
（研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線）

〔雑誌論文〕（計　２　件）

① ヨコタ村上孝之、Polyglotism of Jewish Latvian Literati and Linguistic Politics of the Periphery、*JSEES*、36 巻、47－58
② ヨコタ村上孝之、Der Polyglottismus der jüdisch-lettischen Literaten und dessen Beziehung zur Politik der linguistischen Identität、言語文化研究（大阪大学言語文化研究科紀要）、40 巻、2014、309－316

〔学会発表〕（計　５　件）

① Polyglotism of Jewish Latvian Literati and its Relevance to Linguistic Identity Politics. 第 13 回世界スラブ東欧研究学会、神田外国語大学、2015 年 8 月
② Translation and Its Complicity with the Ideology of a Native Language、クウェート国湾岸科学技術大学、2015 年 4 月
③ 『帝国の周縁のユダヤ系ロシア文学――ウラジオストクとリーガの文学者を例に』　ロシア文学会関西支部研究発表会特別講演　京都産業大学　2014 年 12 月 6 日
④ Polyglotism of Jewish Latvian Literati and its Relevance to Linguistic Identity Politics. アゼルバイジャン共和国バクー市バクー・スラブ大学、2013 年 12 月
⑤ Reconsidering Nationalism/Internationalism/Cosmopolitanism in Their Relevance to Literary Theory.イラン国テヘラン市イマム・サディク大学、2013 年９月
⑥ Thought Censorship under Totalitarianism: A Precarious Relationship Between Thought and Voice In Mandelstam　国際比較文学会世界大会、パリ市ソルボンヌ大学、2013 年７月
⑦ English and Cosmopolitanism: Their Significance for the Diasporic Russian-Jewish Literati.　ボスニア・ヘルツェゴヴィナ国バンヤ・ルーカ市バンヤ・ルーカ大学、2013 年６月

〔図書〕（計　２　件）

① ヨコタ村上孝之（共著）、Being an Expatriate at Home: An Internal and External Exile of Jewish Poets in Russia and America、言語文化プロジェクト『表象と文化ＸＩ』、2014 年、55－61
② ヨコタ村上孝之（共著）、A Curious Literary Connection of a Russian and a Japanese Modernists in the Margin of Empires: 'Colonial Expatriation' in Harbin of Aleksandr Vertinsky and Jiromasa Gunji、*The Literature of Expatriates*、エマヌエル大学出版局、2013 年、39－60

〔産業財産権〕
○出願状況（計　　件）

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
出願年月日：
国内外の別：

○取得状況（計　　件）

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
取得年月日：
国内外の別：

〔その他〕
ホームページ等

６．研究組織
(1)研究代表者
ヨコタ村上　孝之（YOKOTAMURAKAMI, Takayuki）
大阪大学大学院言語文化研究科・准教授
研究者番号：25370352

(2)研究分担者
（　　）

研究者番号：

(3)連携研究者
（　　）

研究者番号：